

(\*印刷の都合により、行間をつめた箇所がある。)

	独吟	張行	連歌会出席 現存百韻	連歌会出席 発句から推定の連歌	師より受容 講釈、歌会、講義	著作・編纂 自選集 連歌論 和歌	奉仕 講釈、伝授、贈呈、加點
1421 (応永21)	宗祇誕生	*別紙参照					
1457 (康正3)			法楽何路百韻 (下草と)		*宗友と交友 以降40年		
1461 (寛正2)	独吟何人百韻 (天の戸を 独吟何人百韻 (岩が根に					伝宗祇作「連歌初心抄 (宗祇初心抄)」書写か	
1462 (寛正3)				(尾張大山政所			
1463 (寛正4)	独吟何舟百韻 (払ふべき						
1464 (寛正5)	独吟名所百韻 (花の春		熊野法楽千句	(安富盛永主催			
1465 (寛正6)			何人百韻 (梅送る 何船百韻 (鳥ねぶる	(景瑞院実中主催 (細川勝元発句			
1466 (寛正7)							
1466 (文正元) *関東流浪始まる						長六文 (藻塩草)	長尾孫六に贈る
1467 (文正2) (応仁元)	名所独吟山何百韻 (富士 の根も			(武蔵品川 宗初十三回忌追善 連歌		吾妻問答	長尾孫四郎景春に贈る
1468 (応仁2) 相模、 筑波山、日光 白河	独吟何人百韻 (月の秋 *文明2説アリ			(武蔵五十子 藤沢、鎌倉、品川 で連歌 筑波山の寺連歌 日光僧坊で連歌 (白河結城道朝 (武蔵	心敬「ささめごと」(書 写)	白河紀行?	
1469 (文明元) 伊勢 奈良				伊勢大神宮法楽千 句 奈良大乘院連歌会 北畠教具千句連歌 北畠家二百五十番 連歌合 参加 心敬と連歌			
1470 (文明2) 川越			河越千句 (山田千句)	(太田道真主催	心敬から「所々返答」第 三状		
1471 (文明3) 三島	独吟三島千句 (なべて世 の風をおさめよ神の春				東常縁「古今集」講釈 (初期、後度) 「古今集」切紙伝授 「百人一首」講釈		
1472 (文明4) 美濃			両吟山何百韻 (時雨来 や 何路百韻 (風や雲 美濃千句	(遠江 堀江亭 (濃革手 正法寺 (同、専順坊 妙見社連歌	*常縁より「俊頼髓脳」 東常縁「伊勢物語」講釈 「門弟随一」加証奥書 「当流の説」伝授 「伊勢物語注」加証奥書	古今和歌集二度聞書	宗祇三十句連歌 後土御門帝が書写を下命
1473 (文明5) 近江 *帰京			何路百韻 (波に咲け	(近江志賀の辺 一条兼良連歌会	常縁「古今集」伝授完了	宗祇初心抄 (書写) 宗祇沙汰ノ連歌事	後土御門帝が書写を下命
1474 (文明6)			両吟何木百韻 (昨日よ り	(元盛と?)		心付事少々 (連歌心付 之事) 書写 『萱草』清書本 連歌心付事少々	三条西実隆に古今集講釈
1475 (文明7)				奈良千句連歌会 一条兼良連歌会		種玉篇次抄	源氏物語講釈 (興俊)
1476 (文明8) このころ	春日末社左抛明神法楽 独吟何路百韻 (朝なげに *種玉庵を結ぶか 種玉庵開き連歌会		表佐千句美濃十花千句 (花そ雲 何船百韻 (言の葉の	(美濃表佐 阿 弥陀寺 (一	一条兼良「竹林抄」序文	連歌心付之事 書写 竹林抄?	後土御門帝へ古今集一部
1477 (文明9) 種玉庵 (源氏物語 巻) 種玉庵にて聴講		帯木 講釈	何船百韻 (風吹かぬ	(杉重道陣所 一条兼良連歌会	東常縁「短歌 (=長歌) 事」(切紙口伝) 正宗竜統「三体詩」講釈 正宗竜統「三体詩」講釈		源氏物語 帯木巻講釈 禁裏下命の判詞依頼を伝え に奈良成就院へ 宗祇講釈「伊勢物語肖聞抄」 (肖柏聞書) 成る
1478 (文明10) 越後(一) 12,25	種玉庵にて聴講 *種玉庵類焼		和漢連句百韻 (雪は花		一条兼良「代始和抄」 伝授 正宗竜統「三体詩」講釈		宗欽に「百人一首抄」伝授 広鐘の連歌に付墨
1479 (文明11) 越前				若狭小浜武田館千 句連歌 沼田三左貞胤亭 連歌会	吉田兼俱「大嘗会之事」 伝授	老のすさみ	宗長「伊勢物語宗欽聞書」 朝倉孝景へ贈る